

協働・共創について

1. 総合計画と共創

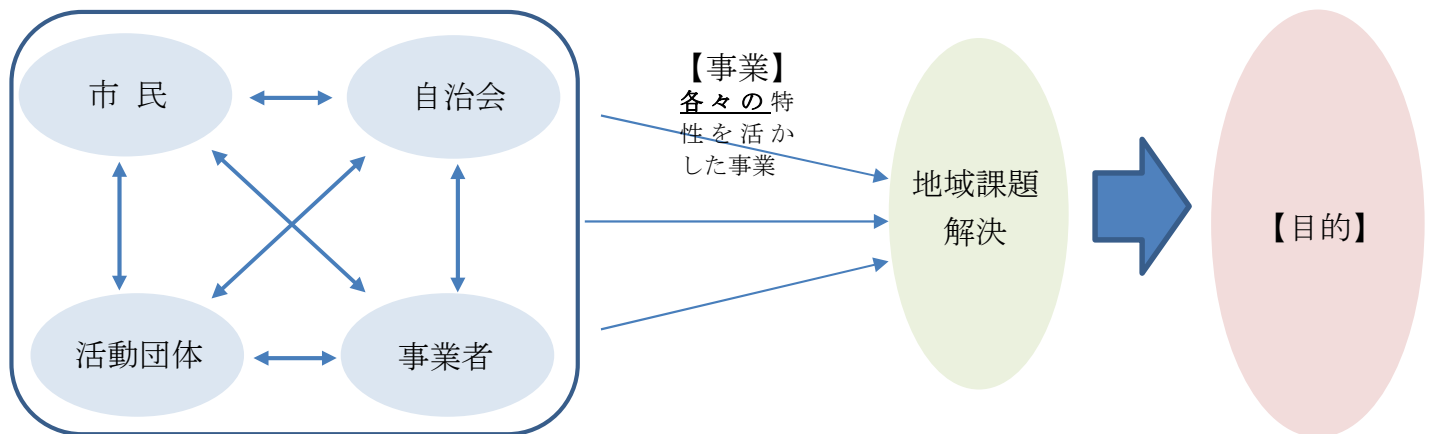
《背景》

多様な価値観に対応していくためには、行政サービスだけでは困難。
 市民が観客からプレイヤーに変革。（一緒に頑張っていこう）
 市民参加型ワークショップにおいても、様々な価値観が生まれてきている。

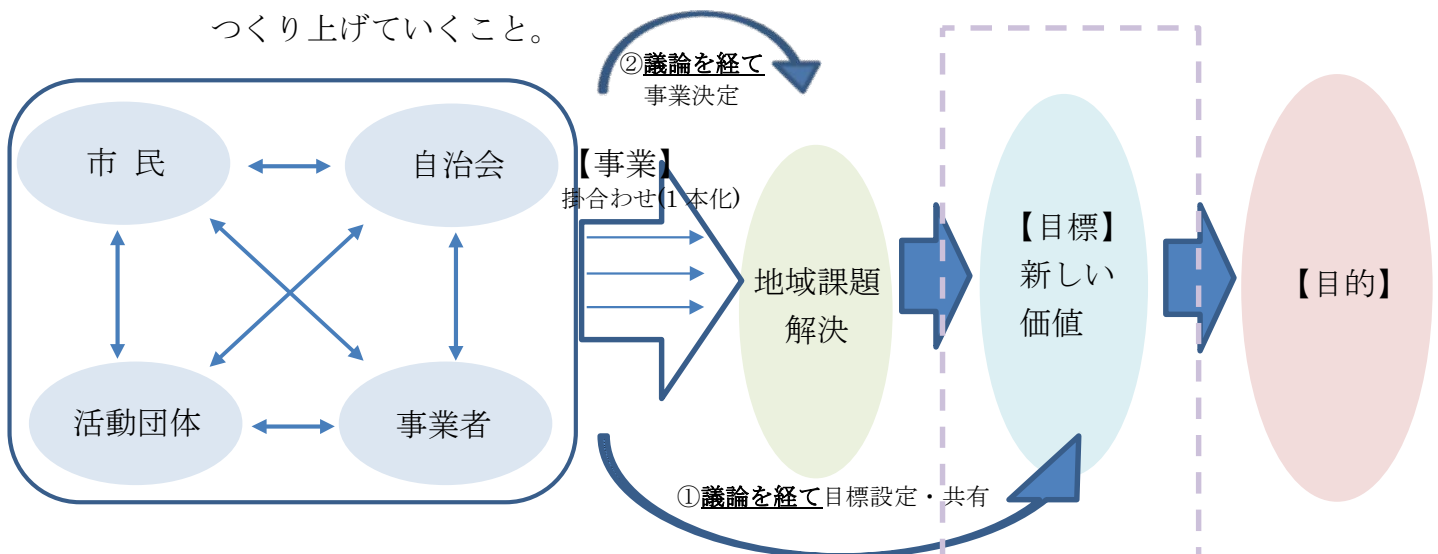
更なる協働のまちづくりを行っていくため、新たな価値や事業の構築段階から一緒に取り組む“共創”の考え方に注目。

2. 協働と共創の違い

【協働】・・・市民、自治会、活動団体、事業者、行政等それぞれが、目的を共有し、お互いの持つ特性を活かしながら支え合うパートナーとして、対等な立場で協力して住み続けられるまちづくりを行っていくこと



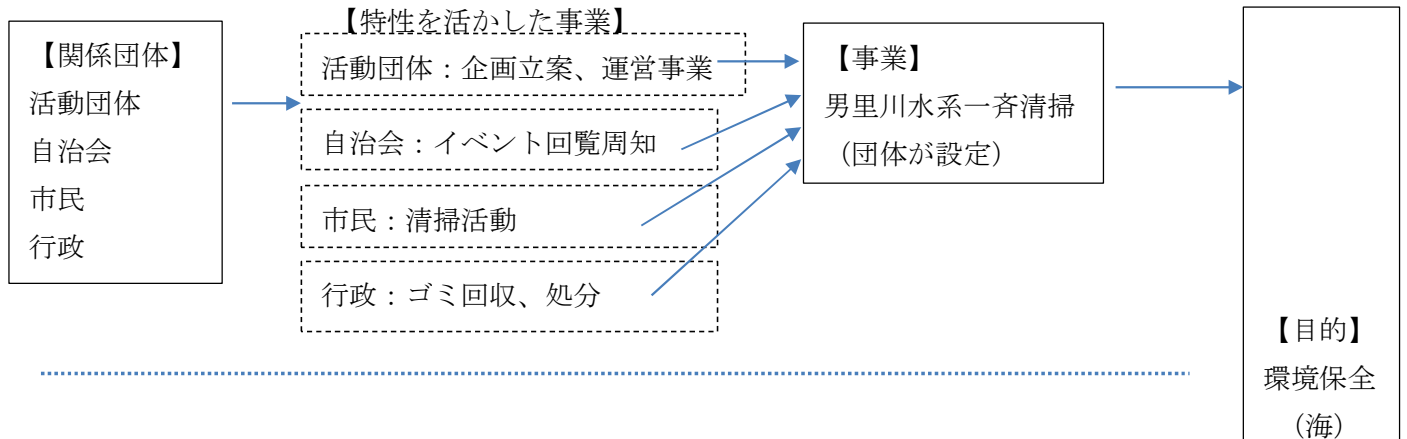
【共創】・・・協働の中でも、目標設定や企画立案の段階から、市民、自治会、活動団体、事業者、行政等が連携し、課題の共有、様々な価値観のもと解決策の検討、実践的な取り組みを行うことにより、まちの魅力や地域の価値を一緒に作り上げていくこと。



※事例

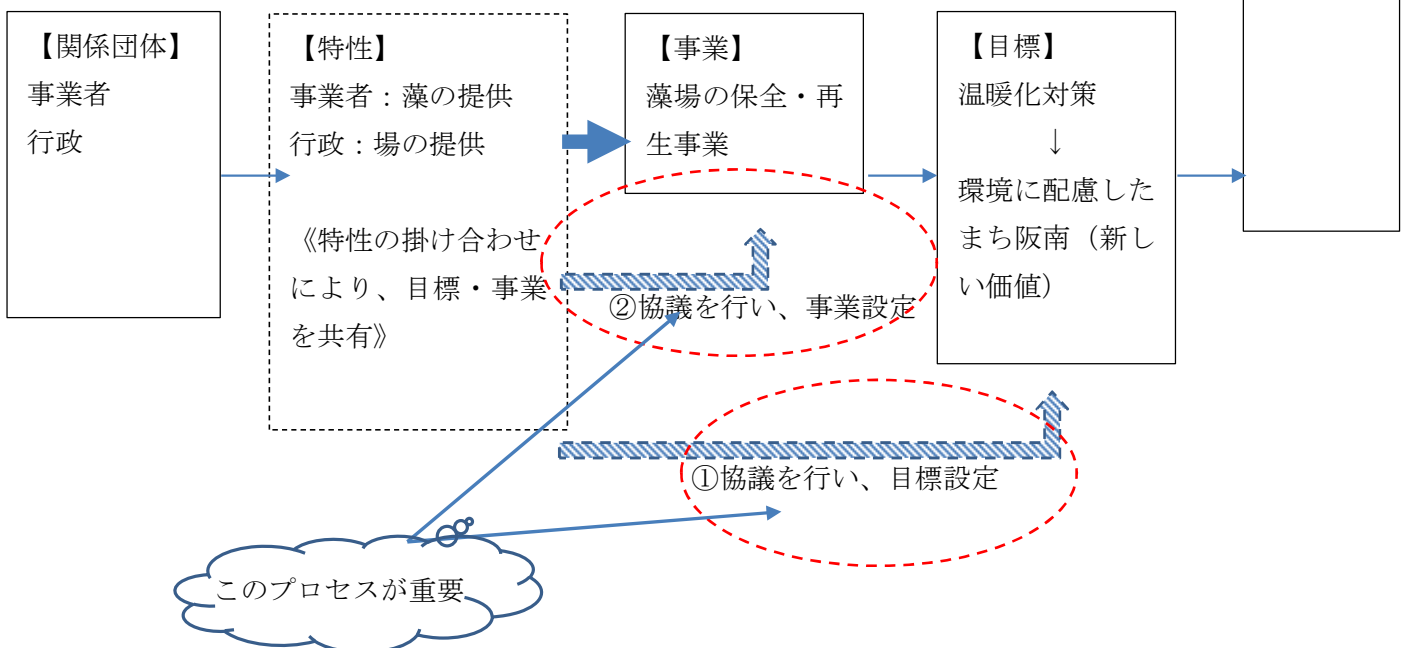
<協働>

【男里川水系一斉清掃行動】



<共創>

【大阪湾の海の森（藻場）保全・再生プロジェクト】



3. 議論の目指す方向性

協働の中でも、新しい価値や事業などを構築段階から協働で取り組む、「共創：コクリエーション」を、「阪南市協働の指針（案）」に盛り込んでいく